

# 令和3年度 日本精神科医学会学術教育研修会 報告

## PSW 部門

飯島 徳哲 坂本 隆行

令和3年度日本精神科医学会学術教育研修会 PSW 部門は、令和4年2月10日（木）に日精協福井県支部のご担当により、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、web 配信にて福井新聞社風の森ホールで開催された。「多様性を支えるソーシャルワーク～精神保健福祉士のこれから～」としたテーマのもと、全国から111名の参加者を得て開催された。

開講式では、日精協福井県支部長の中川博幾先生が開講の挨拶をされ、続いて日本精神科医学会学会長の山崎學先生が挨拶をされた。

会長講演では、「精神科医療の将来展望」と題して、日精協の山崎學会長が講演をされた。

最初に、精神保健福祉行政の歩みについて、行政関連の歴史、公費政策等の変遷を詳細に説明された。精神保健福祉の動向では、最新のデータをグラフ化し、精神疾患を有する総患者数が400万人を超えることや統合失調症入院者数が減少を続け、精神病床利用率が90%を切っていることなどを話された。精神科医療における社会的偏見については、日精協会員病院のベッド数が国際的な精神病床の定義に合わせれば、他国の精神病床数と比べても多くはないことや身体的拘束件数が介護施設に比べて精神科病院は少ないことを話された。医療観察法では、より重度な治療反応性のない精神障害者の治療が措置入院という形で民間の精神科病院に委ねられていることを、障害者雇用では、精神障害者の雇用率が他の障害者に比べて極端に低いことなどを話された。精神科医療の将来像については、少子高齢化により高齢独居世帯が増加し、社会保障費の増加、医療・介護サービ



スの労働者の確保等の懸念を話された。最後に精神病床における新型コロナウイルスの感染状況とウクライナ情勢について話され、講演を終えられた。

演題1では、「障害者雇用促進の施策及び障害者雇用の現状と課題」と題して、福井労働局職業対策課就職支援コーディネーターの橋本光代先生が講演された。最初に障害者雇用の理念を説明された。続いて障害者雇用促進法の概要について、雇用・就業は、障害者の自立・社会参加の重要な柱であることや障害者の範囲、雇用義務の対象を話され、精神障害者は他の障害者に比べて職場定着率が低い、就職時は短時間勤務から始めて30時間以上勤務に移行すると定着率が高くなることなどを話された。障害者雇用の状況では新型コロナウイルス感染症の影響もあり、就職件数が減少したことなどを話された。職業リハビリテーションについては、実施体制の概要と障害者雇用促進の支援、ハローワーク等での各サポーターによる支援を説明され、就労パスポートの利用で共通認識が持て、職場の定着率が高くなることなどを話された。最後に医療機関との連携の重要性を話され、各支援の利用と連携を行った就職支援事例を紹介されて講演を終えられた。

演題2では、「多様性ある神経発達症」と題して、福井大学医学部教授の小坂浩隆先生からご講演いただいた。その中で大人に気付かれる神経発

達症について話された。幼少期には問題がなかったが成人期になって神経発達症に気付かれたケースは、周囲のサポートがあったり知的レベルが高く幼少期に苦手分野が露呈することがなかったが、成人期になって周囲からの要求やストレスが高まることによって苦手分野が露呈してくると考えられるとした。しかし、そうした解釈以外の可能性が指摘されているとした。また、早期の気付きや対応方法について触れ、職場での合理的配慮や職場への依頼、家族や当事者への指導について具体的に話された。

最後にまとめとして、大人になって初めて気付かれる神経発達症を持つ方々では、周辺症状や二次障害のために別の疾患に見えたり「変わった人」と評価されること、うつ病や不安障害、適応障害などの状態像を示し多様性があること、社会適応不全や自尊心の低下が著しいこと、家族や仲間、職場、医療者の支援によって状況が好転することを挙げ、講演を締めくくった。

演題3では、「依存症の多様性とその対応」と題して、医療法人積善会猪原病院院長の大森晶夫先生からご講演いただいた。まず、依存症の対象は物質依存だけではなく、ギャンブルやゲームなどの行為依存や、虐待やいじめ、DV、パワハラなど人間関係への依存があることに触れられた。そして、ICD-10やDSM-5の診断基準、脳内報酬系や自己治療仮説など病態に関すること、薬物療法や動機付け面接、条件反射制御法、SMARPP (Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program), CRAFT (Community Reinforcement and Family Training), 自助グループ・回復施設などの治療や対応・支援に関することを、多岐にわたって話された。非専門職を対象

とした基本的な依存症診療についての非常に分かりやすいご講演であった。

演題4では、「かかわりあうということ～ソーシャルワークの原点を求めて～」と題して、松山東雲女子大学特任教授の吉川公章先生が講演された。

はじめに、現状認識として精神科利用者が増加・多様化していること、精神科入院患者が高齢化していること、精神障害者支援サービスの社会資源は、質・量両面でニーズに対応できていないことなどを話された。続いてソーシャルワークについては、人々のエンパワメントと開放を促進することが大事なところであるとされ、援助・支援・権利擁護等をソーシャルワーカーとクライアントの関係性の視点で話された。その中でクライアントとの関わり方・関わり合うことの意義を具体的に話された。最後に、ソーシャルワーカーの専門性についての注意点とクライアントの自己決定・自律性の獲得に向けた対話の方法・日常実践の点検や振り返りが不可欠であることを話され講演を終えられた。

閉講式では、日本精神科医学会から受講証書の授与がなされ、日精協福井県支部へ感謝状が贈呈された。続いて、学術研修分科会構成員の閉会の挨拶のあと、日精協福井県支部長の中川博幾先生が閉講の挨拶をされ、全日程を終了した。

おわりに、中川博幾支部長をはじめ本研修会の企画・運営に当たられた福井県支部の諸先生方、およびスタッフの皆様、関係者の方々に深く感謝を申し上げるとともに、福井県支部の今後のご発展をお祈り申し上げたい。

(日本精神科医学会  
学術教育推進制度学術研修分科会)